



## わたしたちは **気候危機時代** を生きています！ 「1.5度をどう守りますか？ なにができますか？」 ～COP27の報告会に参加して～

2022年11月6日から20日まで、エジプトで国連気候変動会議・COP27が行われました。気候ネットワーク、CAN-Japanそして地球環境市民会議（CASA）がCOP27報告会を実施したので参加し、その内容や問題点について簡単にまとめてみました。

まず、最初に報じられたのは、日本が今年も「化石賞」を受賞したということです。セレモニーで受賞者役となったのは、CASAからの参加者で、現地の様子を報告してくださった土田道代さんであることを初めて知りました。土田さん本当に疲れさまでした！

「化石賞」とは、環境NGOの世界的ネットワークであるCAN（気候行動ネットワーク）が、交渉に後ろ向きな発言や行動をした国に贈る不名誉な賞です。



2022年11月9日 COP27で最初の「今日の化石賞」は日本が受賞。左端が土田さん（写真提供 CASA）

CANは「日本が公的資金を海外の化石燃料事業へ拠出している世界最大の国であり、その金額は2019年から2021年までの3年間の年平均で106億ドルに上回ったことが明らかとなった。この資金の流れは全く誤った方向である」（オイル・チェンジ・インターナショナルの報告書から）としており、日本の公的資金の流れを批判したものです。世界の環境NGOが日本の取り組みに注目しているということです。

では、**COP27の1つ目の成果ですが**、気候危機による「損失と被害」を支援するための基

金を作ることが決まったことです。

気候危機をもたらす原因となる温室効果ガスを大量に排出してきたのは、産業革命以後、急速に発展した先進国と呼ばれる国々です。日本は先進国の1つで、気候変動問題では加害国のひとつです（日本は世界第5位、累積でも世界第6位の大排出国）。

気候危機で深刻な被害を受けているのは、小さな島国やアフリカ諸国などの途上国です。小さな島国は、海面上昇によって、国土が海に飲み込まれようとするツバルやフィジー、キリバスのような国々です。アフリカでは深刻な干ばつが続き、数百万人が極度の食料不足に陥っています。昨年、大雨によって、国土の3分の1が水没し、3300万人が被災したパキスタンの被害は記憶に新しいところです。COP27では、気候変動によって生じる悪影響に特に脆弱な国々を支援するための基金を作ることが決まりました。

しかし、誰が資金を拠出するか、どの国が資金の受け取り手になるのか、どんな内容を対象とするかなどの具体的な内容については2023年のCOP28で決定することになっています。

**2つ目の成果は**、2030年に向けた削減目標の大幅強化とその加速について、作業計画の内容が合意されたことです。これは、COP26で「平均気温の上昇を1.5℃におさえる」ことを事実上、目指すべき目標であると合意したものの、各国が国連に提出している削減目標では、1.5℃はおろか2℃目標さえ達成できないことが明らかになっていたことから、COP27では、2030年目標の大幅強化とその加速を進める作業計画

の内容が話し合われました。

交渉の結果、2030年目標の引き上げに関する作業計画の内容は合意されたものの、作業計画の結果、新しい目標や目的を課さないことが決まり、各国に対し、目標の大幅引き上げを強く要請する内容にはなりません。2030年目標の大幅引き上げはCOP28へ先送りされることになり、COP27は、科学が要請する緊急性に応えることはできませんでした。

**日本は**、2050年排出実質ゼロを宣言し、2030年度に2013年度に比べて46%削減、さらに50%の高みを目指すという目標を国連に提出しています。2050年排出実質ゼロと言いながら、化石燃料をほぼ輸入に頼って国内で石炭火力発電を動かし、石炭火力発電をいつ廃止するのかの考えを明らかにしていません。それどころか、新規で建設しようとしています。神戸では石炭火力発電所が2基増設され稼働を始めました。

COP27は「実施のCOP」と位置付けられ、1.5℃目標のため、2030年目標の引き上げとその加速をどう実施していくのかを話し合うことが交渉テーマでしたが、日本は国内の石炭火力発電をやめる考えも持たず、海外の化石燃料事業プロジェクトに公的資金を拠出する世界の国であることが明らかになるなど、明らかにパリ協定に逆行するエネルギー政策を持ち、冒頭の「化石賞」受賞に結びつきます。

ヨーロッパの研究機関などで構成される、「クライメート・アクション・トラッカー」は、日本は2030年までに、国内の温室効果ガス排出量を2013年比で60%以上削減することが必要としています。

**世界は**、脱炭素に向けて動いています。グローバルな企業は、「脱炭素の取り組みを明確にしないと世界で通用しないのです」と多言語辞書を製作するカシオ（CASIO）が言いました。また、ラーメンは日本が誇る品物ですが、池田にあるラーメンの会社では、器をプラスチックから自然素材に変えたという話も聞きました。飛行機も代替エネルギーを考えていると聞いて、びっくりしました。

このように、脱炭素への取り組みがエネルギーや産業経済に大きくかわることから、職種の入替わりや働く人たちへの配慮等、持続可能な社会をめざし、すべての人々が取り残されないような取り組みが大事とする考え方が世界

に広まっており、これは「**公正な移行**」と呼ばれます。世界では「公正な移行」に関する取り組みがすでに始まっています。

エネルギーに関しては、欧州は基本的に再生可能エネルギーに向かっています。また、インドや中国等の再生可能エネルギーへの取り組みが大変進んでいるとの報告もありました。

日本は2011年の福島原発事故の後始末もできていません、汚染水はたまり続け、政府は今年春から夏ごろに海に流そうなどともくろんでいますが、そんなことが許されるはずがありません。「冬の電気が不足する」と言いますが、不足するのは東京電力管内だけで、電力を融通できるようにすれば解決します。そういう対策を講じて、将来に向けて、自然エネルギーの拡大を目指す国の政策が必要です。

最後に、私たちは、国や自治体が、1.5℃目標の達成のため具体的に何をしようとしているのか、自分たちの地域の取り組みを見ていく必要があります。

**豊中市**の脱炭素に向けての取り組みについて、市の「地球温暖化対策プロジェクト」チームの話し合いに参加すると、豊中市の事業としては、

- ・家電の買い替え、電力消費量の低い家電に買い替えを進める
- ・電気の電力消費量の見える化チェック
- ・住宅の省エネルギー診断、夏の暑さチェック、冬の寒さ・湿度チェック

等の取り組みをしていることがわかりました。

豊中市民エネルギーの会としては、日本の豊かな自然を生かしたエネルギー政策を拡大すべく、このような家庭での節電対策を進めると同時に、以前、吹田市と豊中市で協働で取り組んでいた「電力のパワーシフト」（EE電）の働きかけや、大阪府の「太陽光パネル」「蓄電池」を共同購入する取り組み等をさらに推進してほしいと働きかけていきます。また、市のCO<sub>2</sub>の排出量の測定はどうなっているのかなどに注目していきます。（衛藤）





# 「集まって話そう地球の環境、私たちの未来」に参加し 出前授業について報告しました

大阪教育文化センター環境教育研究会主催で、第4回教育講座 環境教育交流会が「集まって話そう地球の環境、わたしたちの未来」というテーマで1月22日（日）13:30～16:40、高津ガーデン3Fカトリアでおこなわれました。

参加は30名、教員の他、地域で活動する環境団体のみなさん、高校生、中学生の参加もありました。

報告は2つで、英真学園の小林さんは年間1単位で実施した社会科「国際問題講座」の授業について報告しました。

気候変動問題を学んだ生徒達が環境問題の課題を心がけの問題ではなく自分たちの生活、社会、政治、経済の問題と意識してくれることをめざしました。気候変動ワークショップや、COP（気候変動条約締結国会議）での演説動画、立場を決めてのおこなったディベートの授業などが報告されました。

生徒のまとめからは、問題を真摯に深く捉え解決を考える生徒達の姿が伝わってきました。

豊中市民エネルギーの会の山崎さんからは豊中市などの公立小学校でおこなった出前授業の経験が紹介されました。

地球の歴史から地球環境が成立した歴史、現在おこっている異常気象の実態と気候変動によってこれから起こる問題などについて小学生にわかりやすく伝え、自分たちの生活を見直すこ

とを訴えました。何より報告者の環境問題を子ども達に伝えたいという熱い思いが伝わってくる報告でした。

後半は十数人から発言を受けました。

2つの報告についての感想、学校で行った授業や行事の紹介、地域でおこなった環境問題にかかわる活動報告、など多様な内容が報告されました。

特に二人の高校生が授業で学んだ環境問題について感じている思いや、参加した環境保全プログラムで学んだことについて語ってくれた発言には参加者がはげまされました。

参加者のほとんどが出してくれた感想の中には、「今後につながる新しい学びがあった。」「もっと深く学びたい。」といった思いが書かれていました。今後の活動につなぐことができればと思っています。

準会員 澤田史郎（環境教育研究会）



## 活動報告

- ・2022年11月6日（日）とよなか市民力フェスタ（於）大塚公園 じぶん発電、無料充電の展示
- ・2022年11月19日（土）ギタスナフェスタ（於）ふれあい緑地 じぶん発電、無料充電展示
- ・2022年11月25日（金）～26日（土）とよなか市民環境展（於）豊島体育館 子どもたちの体験学習「手回し発電で阪急電車を動かそう！」を実施。
- ・2023年1月29日（土）（於）アジェンダ21吹田、10人が「じぶん発電」組み立てに取り組んだ。
- ・2023年3月4日（土）（於）豊中男女参画推進センターすてっぷフェスタに参加、「地球があぶない！」のプレゼンテーションを実施
- ・2023年3月25日（土）「豊中市庄内コラボセンター」に今までお世話になった「情報サロン」が移転し、名称を「市民公益活動センター」としてオープンしたので、そのイベントに参加、「地球があぶない！」の温暖化防止の学習会とエコ工作を担当した。

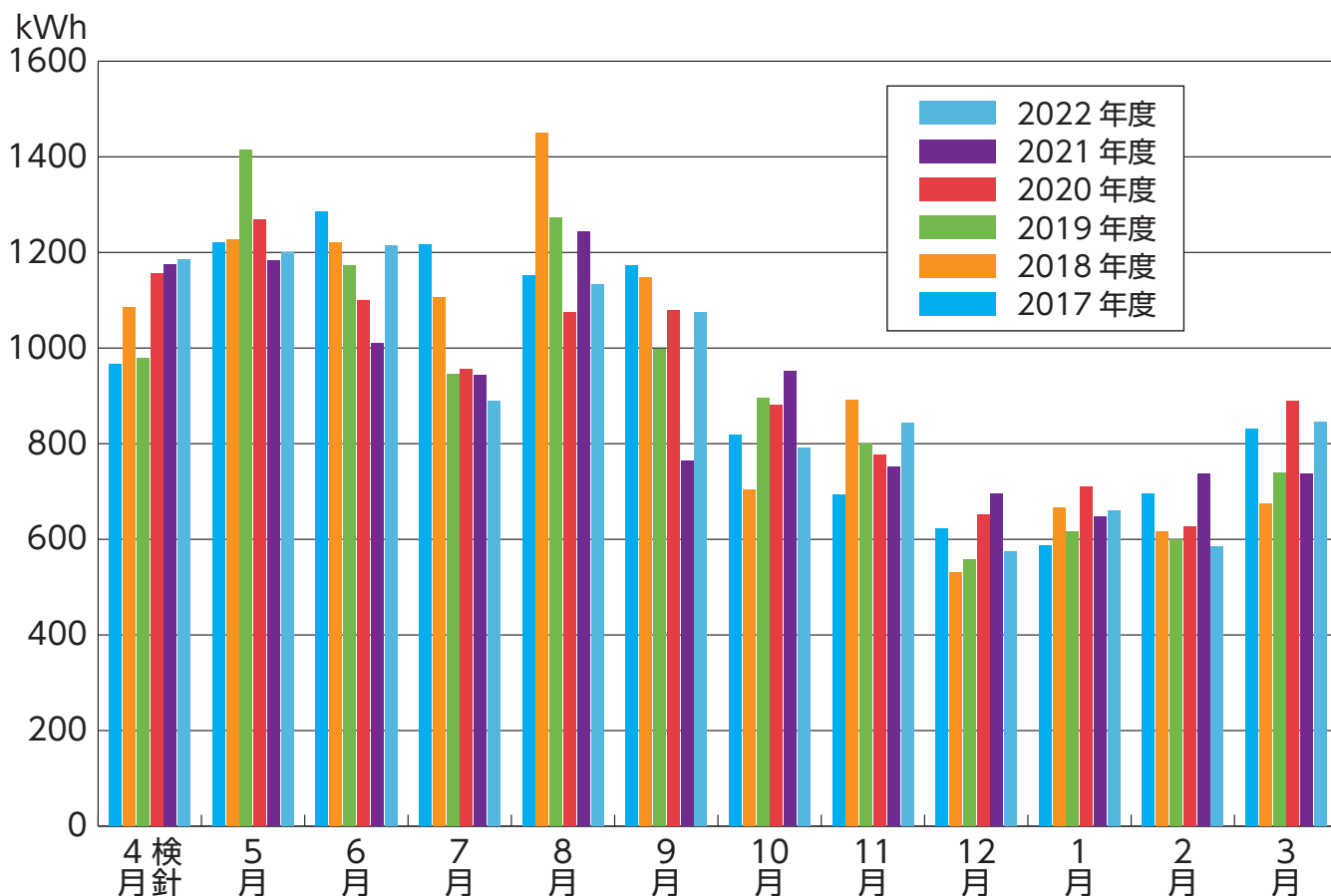
「ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト ウトロに太陽光発電所をつくろう！」の趣旨に賛同し、協力金として3万円を提供することを、運営委員会で検討し決定しました。事業の詳細は下記OQから↓。

ウトロ平和祈念館  
おひさまプロジェクト

**ウトロに太陽光発電所をつくろう！**  
～ウトロで作り ウトロで使う 自然エネルギーを～



# あっぷるおひさま発電所発電量報告



あっぷるおひさま発電所の、各年度の年間総発電量、設備稼働率、CO<sub>2</sub>排出削減量は以下の通りです。  
年間発電量は減少傾向にはありますが、その減少幅は小さく、設備稼働率は15%台を維持しており、非常に順調に動作しているように見受けられます。(浦野)

|        | 年間総発電量    | 設備稼働率  | CO <sub>2</sub> 排出減量 | 杉の木に換算 |
|--------|-----------|--------|----------------------|--------|
| 2017年度 | 11,262kWh | 15.88% | 3,829kg              | 273本   |
| 2018年度 | 11,319kWh | 15.57% | 3,848kg              | 274本   |
| 2019年度 | 10,988kWh | 15.37% | 3,735kg              | 266本   |
| 2020年度 | 11,164kWh | 15.66% | 3,795kg              | 271本   |
| 2021年度 | 10,838kWh | 15.16% | 3,684kg              | 235本   |
| 2022年度 | 10,992kWh | 15.25% | 3,385kg              | 241本   |



パネルの点検  
2022.5.16

設備稼働率＝発電量÷（8.16kW〔設備発電能力〕×24時間×日数）

CO<sub>2</sub>排出削減量＝発電量（kWh）×0.340kg/kWh〔関西電力の実排出係数：2020年度まで〕

// ＝発電量（kWh）×0.308kg/kWh〔 // ：2021年度より〕

杉の木に換算＝樹齢50年の杉の木が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>の量をおよそ14kgとして換算した本数

## 総会の予定

2023年度の総会は5月の最終週か、  
6月の1週目の土曜日午後の予定で準備  
を進めています。ご参加下さい。

特定非営利活動法人・豊中市民エネルギーの会

連絡先 560-0034 豊中市蛍池南町3-2-11-105

電話 06-6843-3568 (FAXも同じ)

メール masumi-e@hotmail.co.jp

郵便振替 口座記号番号 00920-2-332550

加入者名 豊中市民エネルギーの会